

第3回水産業振興計画有識者会議

日 時	令和5年2月16日（木）13時30分から14時50分
場 所	市役所2階第1委員会室
委 員 (敬称略)	○出席7名 久賀みず保、鵜瀬香織、田井村佳正、皆倉貢（代理）、東明、下新原博也、鈴木健太 ○欠席5名 黒木信志、西ノ園浩治、蜂谷拓広、出水田一生、落合三重子

○主な意見等

発言者	内容
	1 鹿屋市水産業振興計画（案）について
議 長	（1）海面養殖業の振興 目標値については前回ご指摘のあった箇所を修正し、養殖業の水揚高から海面漁業の水揚高に変更。輸出関係を尾数から金額に、人工種苗を利用割合に変更している。また、内部の調整もあり漁業ふれあい体験者数としている。
委 員	概要版に「新規」と記載されているところがあるが、どういった意味合いで記載されているのか。
事務局	従来から取り組んでいるものもある中で、来年度以降に事業構築を行うなど、特に力を入れていく新しい取組のものに「新規」と記載している。養殖に関しては種苗を中国に依存している状況なので、人工種苗を増やしていくことは間違いのない方向。県に働きかけながら徐々に人工種苗の割合を増やしていきたい。生産コストの低減としてICT機器による漁場環境の管理や、魚粉の代替飼料の導入等を意識している。カンパチはブリと比べて輸出が伸びていない。生産量を伸ばすための生簀の増枠は輸出分では行えないため、そこも見据えて販売戦略を展開する必要がある。
事務局	（2）漁船漁業の振興 地域活性化とあわせて漁船漁業の皆さんが何か副収入を得る仕組みができないのか今後検討していきたい。牡蠣養殖やアワビの陸上養殖等についてはモデル事業を展開していきたいと思っている。最初から自分達で全てやっていくというのはリスクが高いため、市の方でできる手伝いは行っていきたい。
委 員	県内の事例で、海藻類の養殖を兼業で行っているところがある。牡蠣養殖などよりさらに初期投資が不要。藻類養殖もかなり現実的なのではないか。

発言者	内容
委員	鹿屋市の養殖については、漁協の基盤や養殖業者さんも比較的規模が大きい業者さんが残っていらっしゃるって、方向性を定めてじっくりやればいいが、漁船漁業は担い手対策も含め早急に対策を打つ必要がある。5年度、6年度あたりで実行してほしい。
議長	モデルなどの具体的な取組を行い、実際に何か事業構築を行うというプロセスを考えると、ここ1年か2年くらいは先進地の取組をしっかりと分析して、その上でモデル事業を組んでそこから事業者に広めていくという形になる。
	(3) 内水面養殖業の振興
事務局	ウナギは他の魚種と違い代替品が無いので、コスト上昇分をある程度価格に載せられている。課題としてはシラスウナギの漁獲量で種苗費が大幅に変動すること。人工種苗の研究は国を挙げて行っている。市としては燃油や資材の高騰などでできる支援があれば考えていく。
委員	今年のシラスウナギは多くはないが、去年に比べれば取れている。ウナギについては明るい傾向かと思う。
	(4) 担い手の確保・育成
委員	担い手の確保・育成については、この計画内では養殖業と漁船漁業の両方について考えてらっしゃるのか。何か違いがあればそこを念頭に置きつつ、現状と課題について書かれた方がよいのでは。
事務局	漁船漁業と養殖業の違いを書き分けて修正させていただく。
委員	新規就業者確保の働きかけはどのようなイメージか。課の中でも話を行うがなかなかアイデアが無い。
事務局	高校生向けの合同就職面談会などで、養殖業の会社経営者が求人を行うのは可能と考えている。実際にうなぎ養殖などでは、そういった面談会で従業員の確保を行っているところもある。労働力の確保を目的とした部分だけであれば、就職する側の高校生等にとってもあまり魅力がない。一定の技術を身につけて独立できる、もしくはそれなりの責任を任せて貰って、組織内で一定の収入とやりがいを見つけられなければ。漁業の現場でそういう仕組みを作ることを一緒に考えていかなければならない。
委員	釣りのイベントなどを開催して、そこに集まってきた人や、魚が好きな人にターゲットを絞って漁業への就職を斡旋してはどうか。その方が就業する可能性が高いのでは。半分は養殖の従業員として働き、あとは漁船をリース等で借りて自分

発言者	内容
	で漁業を行う。高級魚のアオリイカ、アラ、ボラ（カラスミ）などポイントを合わせていけば漁師として一步踏み出すことができるのでは。
委員	飲食店で働く人と漁業を結びつけられれば良いのではないか。自分で獲った魚や、働いている養殖現場から仕入れた魚を自分の店で提供する。お客さんに PR もできるし良いのではないか。
委員	飲食店と漁業の結びつきは既に行っているところがある。大手の飲食店が子会社を作って定置網漁業を行い、魚は全部自社の飲食店で提供するといった形態。鹿屋でもおもしろいかも知れない。
委員	飲食店の従業員は、漁業者や養殖業者が働く時間帯は隙間時間だと思う。自分たちの所得アップのために働けて、養殖業者などからすると人手不足の解消ができる。
委員	鹿屋の環境を考えると、漁業にプラスして働くものがたくさんあるので、経営を2本3本の柱で支えていける。そういうアピールの仕方も良いのでは。
委員	1つの定職だけでなく、いくつかの職業を掛け持ちして働くような働き方に対しても、もう少し国の保障などがあれば働きやすくなると思う。
議長	鹿屋だからこそできる兼業の形も模索していきたい。
議長	<p data-bbox="336 1317 863 1350">(5) 水産物の加工・流通・販売促進</p> <p data-bbox="336 1350 1479 1563">カンパチの輸出は全然進んでいない。漁協の新加工場もできた強みやブリとの違いを生かしながらしっかり取り組んでいきたい。市の漁船漁業の水揚げは多くないが、大隅半島には高山、内之浦、佐多など比較的漁船漁業が多い地域がある。大隅の中核として市場機能をしっかり維持していくことが大事。</p>
委員	流通はなかなか難しい。大手は物流のルートが決まっている。例えば海潟で作ったフィーレは一度、鳥栖のセンターまで上がってからすべての店舗に配送される。物流会社と九州全体で契約していたりするので、地元で水揚げされた魚を地元で流すということができない。
委員	輸出に関しては加工・冷凍加工が大事。生産者は国内用と輸出用を分けて作っている訳ではない。加工して初めて輸出のマーケットにアクセスできる。鹿屋市漁協も加工場を大きくした。その新しいことが計画に反映されていて良いと思う。

発言者	内容
議長	<p>(6) 漁村地域の振興</p> <p>これから高速船が来るなど古江港を中心にそうした交流が推進されていってほしい。古江町内会の方々を中心にみなと市場周辺の活性化に取り組んでいこうと検討が進められている。個人的なお願いベースになるが、カンパチの水槽など置いてもらえると分かりやすく良い。</p>
委員	<p>水槽は検討したことがあるが、店のスペースなどの関係で断念した。水槽でなくても何か検討していきたい。古江の活性化について国の方に助成事業の申請をしている。前向きに取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>(全体を通して)</p> <p>概要版のところに計画の期間 10 年間とあり、※印で5年毎にローリングとあるが、どういう意味か。</p>
議長	<p>市のスタンスとして計画期間は 10 年と位置付けているが、国の動きや物価高騰だとか、いろんな情勢変化が見込まれるので、5年間の状況に応じて見直していくというイメージ。PDCA のチェックの部分をしっかりまわしていかないとやるべきことに繋がらない。進捗管理というところでは、委員の皆様にも協力頂くことになると思うが、しっかり進めていきたい。</p>
議長	<p>本日の意見や指摘により計画の一部を修正させていただく。委員に再度確認していただいたうえで、3月末を目途に公表する。計画の進捗状況は、都度、共有させていただきたい。</p>